献　　辞

脇浦則行先生は2014年６月３日（火）に逝去されました。本来ならこの『修道商学』55巻第１号は脇浦先生退職記念号として発行される予定でしたが，原稿締切後に脇浦先生が亡くなられたという事情もあり，急遽脇浦則行先生追悼号とすることになりました。

脇浦先生は，1976年３月本学大学院商学研究科博士課程を単位取得満期退学され，同年４月より本学商学部講師（簿記原理担当）として赴任されました。その後，学部ではゼミナールの学生を多く育てられ，大学院商学研究科では会計学原理の担当者として数多くの大学院生を指導されてきました。

長年にわたり，本学の教育・研究・運営に活躍されましたが，1986年から当時の総合研究所次長を４年間，2008年から商学研究科長を２年間されました。商学研究科長の時には，大学院の学生確保に尽力され，法学研究科とのダブルディグリー制度を作られました。これにより税理士志望の学生の確保につながり，商学研究科と法学研究科の学生確保に大いに貢献されました。

1976年からは本学大学院同窓会の設立に尽力され，日本の大学院で初めての同窓会設立となり，初代の会長に就任され，その後1992年まで長きにわたりその職につかれました。1993年より大学院同窓会名誉会長でありました。

研究面では，1990年に『現代会計理論の基礎』を森山書店より出版されました。280ページにおよぶ著書は，３部構成で，第１部はアメリカ会

計学会の『基礎的会計理論報告書』，第２部は，ゴールドバーグの『会計本質論』，第３部は井尻雄士氏の『会計測定の理論』がとりあげられ，それぞれの会計理論が検討されています。本書については，村瀬儀祐教授（当時は高知大学）が会計学の名門雑誌である『會計』第139巻第２号（1991年）に書評を書かれておりそこで高く評価されています。

学会活動では，日本会計研究学会と国際会計研究学会で主に活動され，1988年に行われた国際会計研究学会第５回全国大会と1995年に行われた日本会計研究学会第54回全国大会では実行委員をされました。また，2009年12月５日～６日に行われた中四国商経学会第50回記念大会において，大会委員長として尽力されました。

このように多方面で活躍された脇浦先生ですが，10数年前に大病により大きな手術をされ，その後復帰されお元気になられていました。しかし，研究科長の重責を果たされた後に，入退院を繰り返されることとなり，昨年早期退職をされました。その後療養されていたのですが，残念ながら本号が発行される前に亡くなられてしまいました。私自身は脇浦先生の研究室が隣ということもあり，ご生前は大変お世話になりました。また，お見舞いに伺ったときには，もう一冊本を書きたいということを話され，研究意欲も旺盛であったのですが，誠に悔やまれてなりません。今後も先生には，本学商学部と大学院商学研究科を見守っていただければと思います。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。

2014年５月18日

広島修道大学商学部長　　米　田　邦　彦